

連載

司書・司書教諭が知っておくべき 学校図書館のための情報リテラシー

第8回

学校図書館スタッフ自身が情報リテラシーを 高める：クリティカルシンキングのすすめ(2)

日本女子大学 家政学部家政経済学科 准教授 後藤敏行

前回に引き続き、学校図書館スタッフ自身が情報リテラシーを高めるのに役立つよう、クリティカルシンキングと呼ばれる分野の話題を紹介いたします。

本連載は、ある回だけを読んだ方もその回の内容がわかることを基本にしています(ほかの回に言及したり、参照を付すことはありません)。そのため、また、今回の内容の前提として非常に大切であるため、前回と同様、以下の二点を確認しておきます。

第一に、クリティカルシンキングとは、日本語に訳せば批判的思考ですが、「何でもかんでも文句ばかりつける」という意味ではなく、「情報を鵜呑みにせず、冷静に、いろいろな角度から考える」という意味合いです。第二に、例題二と例題三に特に当てはまりますが、「たしかにそのとおりかもしれないが、次のような批判ができそうか」のようなことを今回も述べます。これは、「こういう別の見方もできる」という見方を提示しているだけです。絶対にこうに違いないと言っているわけではありません。本稿の例題について、どれかひとつの見方だけが正しいと断定するには情報が足りません。

以下、さっそく見ていきましょう。

例題一 次の調査には、批判可能な点がある。どのような批判が可能か指摘しなさい。

県内の小中高校に勤務する非正規雇用の学校司書二〇〇人を対象に、二〇二〇年一月に実施され、一五〇人が回答した調査では、「雇止め不安や賃金、校内での発言権などの面で不満である」と回答した者が七割にのぼった。このことから、多くの職業の中でも、非正規雇用の学校司書はとりわけ不利な立場にいることが推測される。

以下、学校司書の方の反感を買う解説になるかもしれませんが、よく読むとそうではないので、最後までお読みください。「多くの職業の中でも、非正規雇用の学校司書はとりわけ不利な立場にいる」とこと自体は、ひよっとすると、そのとおりかもしれません。ところが、それを立証するためには、例題の調査だけでは不十分です。この調査には比較の対象が存在しないからです。雇止めの不安や賃金などの面で不満である非正規雇用の学校司書が七割にのぼったとしても、もし、同様の不安を抱える労働者が八割にのぼる職業がほか

に多数あるような場合、「多くの職業の中でも、非正規雇用の学校司書はとりわけ不利な立場にいる」とことは推測できません。似たような話ですが、例えば正規雇用の教員も、長時間の残業や膨大な雑務など、ひよっとしたら、別の意味で不満があるかもしれません。そうした群と比較しなければ(この場合、「不満」の内容が別々ですので、どうやって比較するかも考えどころです)、「多くの職業の中でもとりわけ不利」とまでは言えません。

批判可能な点はほかにもあります。例題の調査では、二〇〇人を対象にしたところ、一五〇人が回答し、その七割(すなわち一〇五人)が不満を抱いている、という結果になりました。残りの九五人は不満であると回答しなかったか、そもそも調査に協力しなかったかのいずれかです。

例題の文章だけでは情報不足ですが、そもそも調査に協力しなかった群には、そもそも現状に不満を抱いていない人が多いかもしれません(例えば、賃金はたしかに高くないが、残業がなく家庭と両立しやすいので不満ではない、と感じている非正規雇用の人もいるかもしれません)。つまり、不満を抱いているのは二〇〇

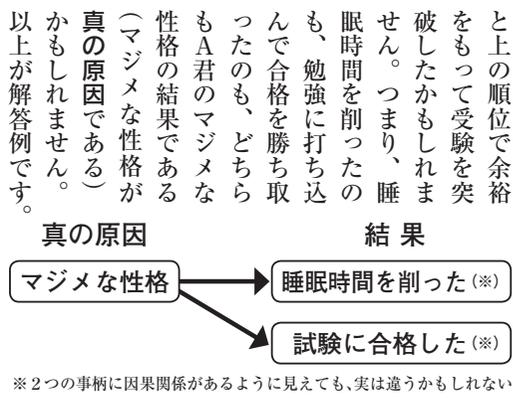
人中の一〇五人(約半数)だけで、残りの約半数はそうではないかもしれない。

もっと言えば、「雇止めの不安や賃金、校内での発言権などの面で不満」という表現は、あいまいです。「雇止めが不安」、「賃金不満」、「発言権の面で不満」などに整理したうえで、どの項目に該当する人がどれほどいるのかを知りたいところです。以上が解答例です。

例題二 以下の文章には、批判可能な点がある。どのような批判が可能か指摘しなさい。

難関大学に合格したA君はマジメな性格で、三年生になってからは、それまで八時間睡眠だったのを六時間に減らして受験勉強をしたと言っていた。A君が合格を勝ち取ったのは、睡眠時間を削ってまで勉強したからだろう。

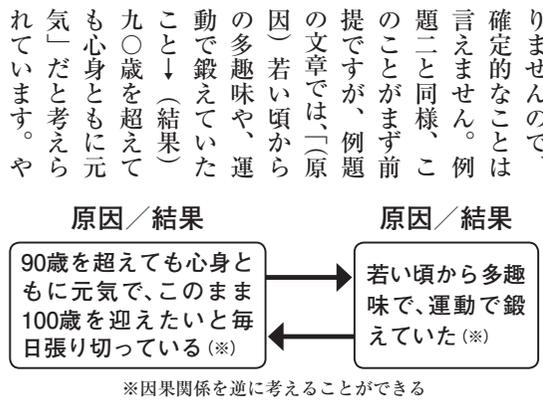
受験勉強を始める前の学力など、性格や睡眠時間以外のA君に関する要因が例題の文章だけでは一切わかりませんので、確定的なことは言えません。このことがまず前提ですが、例題の文章では、「(原因)睡眠時間を削ってまで勉強したこと(結果)難関大学に合格したこと」だと考え



例題三 以下の文章には、批判可能な点がある。どのような批判が可能か指摘しなさい。
自分が若手だった頃の先輩で、今でも親交のある元司書のBさん

は、九〇歳を超えても心身ともに元気です、このまま一〇〇歳を迎えたいと毎日張り切っているそうです。そういえばBさんは、司書時代も、定年後もかなりの間、多趣味で、運動も欠かさなかった。若い頃からの多趣味や、運動で鍛えていたおかげで、今もお元氣なのだろう。

どのような趣味や運動をどの程度していたのか、ほかの生活習慣や持病の有無、家族や地域とのつながりといった、Bさんに関するその他の要因が例題の文章だけでは一切わかりませんので、



は、そのとおりかもしれません。一方で、「九〇歳を超えても心身ともに元気です、このまま一〇〇歳を迎えたいと毎日張り切っている」という活力の持ち主だからこそ、「司書時代も、定年後もかなりの間、多趣味で、運動も欠かさなかった」のかもしれない。すなわち、因果関係が逆かもしれない、という批判ができます。以上が解答例です。

前回と今回紹介したクリティカルシンキングは、うまく使えないと、やたらと理屈をこね回すようなことになってしまいます。ですが、使いこなせれば、偏った意見を見抜き、「それは曲論/極論だろう。そうではなく、こういう別の見方のほうが妥当であろう」と考えることができます。学校図書館スタッフの場合、利用者対応や図書館運営に、ある種の「幅や余裕」をもって臨むことができるかもしれません。便宜上、本連載では架空の例を用いましたが、前回(本連載第七回)紹介した書籍には実例が載っています。また、本連載第四回/第六回で、現にある学術研究に対し、クリティカルシンキング的な発想で批判や解説をしています。それらもぜひ参考にしてください。